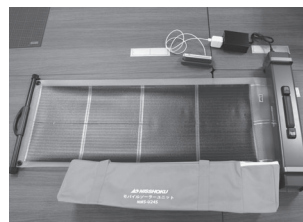


モバイルソーラーユニットの寄贈

4月1日(水)、鏡野町役場危機管理室において、岡山県建設協会津山支部からモバイルソーラーユニット一式を寄贈いただきました。

今回寄贈いただいたモバイルソーラーユニットは、太陽光による発電装置で、様々な機器を接続して使用することもできる携帯用発電機器です。またバッテリーが内蔵されており、蓄電した電力を供給することも可能ですので、緊急時の避難所などで活用させていただきます。



100歳のお誕生日おめでとう

4月のお誕生日で100歳を迎えられた藤田とよ子さん(香々美)に、山崎町長が記念品を贈呈しました。この日をご本人、ご家族共にとても楽しみにしてくださっており、身内の方から贈られた100本のバラの花束、胡蝶蘭など多くの贈り物に囲まれて、桃色の頭巾とちゃんちゃんこで迎えてくださいました。

藤田さんのご主人は、結婚後すぐに徴用で航空機製作所へ行くことになり、その後召集令状を受けフィリピンネグロス島で戦死となったため、結婚生活は非常に短かったそうです。夫婦としての思い出は少ないけれど、いとこ同士でのご結婚であったため、幼い頃から過ごした思い出はたくさんあり、顔を忘れたことがないとお話されていました。また、一人息子さんも31歳で他界され、現在のご自宅で息子さんのお嫁さん、お孫さんと三人で暮らされています。



長寿の秘訣は、「規則正しい生活習慣」決めたことは継続する

「自律した考え方」そして「声を出す」だそうです。なかでも声を出す御詠歌の経歴は高野山金剛講圓通寺支部として60年以上です。80代まで多くのお弟子さんを抱えておられ、今でもセニアカーに乗り、月1回地藏堂で開催の「お地藏様」に行き、御詠歌を楽しんでいるそうです。また、現在も全ての自分の歯で、好き嫌いなく何でも食べられるそうです。新聞に毎日目を通し、大好きな音楽番組をチェックしておられ、歌手の名前もとてもよく覚えているので、いつもお嫁さんが驚かされているそうです。「毎日、御詠歌・大正琴・詩吟など多くの趣味を楽しみながら、生きがいを持って過ごしている」と笑顔でお話してくださいました。



マスクの寄贈

4月2日(木)、鏡野町応接室において、新型コロナウイルス感染症によるマスク不足を受け、株式会社五月工建代表取締役の高山尚明様と安全衛生協議会の協同でマスク2,000枚の寄贈が行われました。

寄贈に際して高山さんは「幸い県北ではまだ感染者が出ていない現状ですから、それを予防する意味でもマスクを使っていた方がいいと思います」と話されました。

マスクを受け取った山崎町長は「いつ県北にコロナが入ってくるのかという状況ですので、それを防ぐためにも役立てさせていただきます」とお礼を言われていました。

寄贈されたマスクは、寄贈者の意向に沿って、教育委員会と社会福祉協議会へ1,000枚ずつ配られました。



手作りマスクの寄贈

4月16日(木)、鏡野町応接室において、新型コロナウイルス感染症によるマスク不足を受け、商工会女性部から手作りの布製マスクの寄贈が行われました。

寄贈に際して商工会女性部部長の矢内州子さんは「この危機の中、私たちも何かしなければいけないと思いこのようにマスクを作らせていただきました。誠心誠意作っておりますので、その気持ちを汲んで感染防止に取り組んでいただければと思います」と話されていました。

マスクを受け取った山崎町長は「現状がいつまで続くかわからない中で、皆様方に少しでも勇気を与えていただき、鏡野町内にその気持ちが共有できるようになればいいなと思います」と答えられていました。

